開催日時：平成30年1月11日（木）10：30～12：00

開催場所：ルポールみずほ 3階 ゆりの間

出席者：三浦亮評議員（議長）、木村評議員、松浦評議員、佐々木評議員、
佐藤評議員、館岡評議員、小林評議員、松渕評議員、
中田支部長、桜田部長、三浦部長、佐藤グループ長、二田グループ長、安田グループ長、
間杉グループ長、沼倉主任、三澤主任、菅野主任（記）

議事録署名人：佐々木評議員（事業主代表） 佐藤評議員（被保険者代表）

委任状受理者：三浦潔評議員

■ 議事事項

1. 平成30年度秋田支部事業計画及び予算（案）について
2. 平成30年度秋田支部保険料率について
3. 協会けんぽのインセンティブ制度の本格実施について

■ 質疑応答、意見交換等

1. 平成30年度秋田支部事業計画及び予算（案）について

【学識経験者】

支払基金の記事でレセプト審査の地域差があつてそれをならしていくとあつた。KPIに査定率を前年度を上回るようにとあり、平成28年度は0.21%であつたと記載されているが、全国的にみて秋田支部はどのくらいの位置づけにあるのか。

【事務局】

数値的には、かなり下位の方。査定率が高い支部はこの2倍から3倍のところもある。ただ、正確なレセプトが提出されていれば、査定にはならないので、単純に査定率で比較することは難しい。秋田の支払基金は、秋田県の医療機関は正確な請求が多いと説明しているが、実際、都道府県の格差はあると思われる。その辺りを調査しつつ、今後もより適正なレセプトの点検を行って査定率の向上を図ってきたい。

【事業主代表】

支部の理念について「保険者として、地域社会から真に支持されるリーダーを目指す」とあるが、このリーダーとはどのようなことを想定しているのか。もう少しわかりやすい表現の方がいいのではないのか。

【事務局】

医療保険者には国保、健保組合などあるが、協会けんぽは加入者でいえば県民の約1/3が加入している。最大の保険者として、医療保険にかかる様々なデータに基づいた意見発信や、加入者の皆様の意見要望を他保険者と共有するなど、皆保険制度の維持・保険制度の内容の充実に向けてリーダーシップを発揮していこうという趣旨。

ただ、表現については、ご指摘を踏まえてよりわかりやすいものを検討したい。

【学識経験者】

理念がないところは組織として評価されない。理念を明文化するのは、非常に大事なことである。

【事業主代表】

私自身、毎年特定保健指導の対象になっているが、後日あらためて時間を作るのは難しく、保健指導を受けそびれている。来年度から、健診当日の初回面談を実施するのは大変良いことである。

【事務局】

保健指導を受けていただく方が少ないのが現状。制度の見直しがあり、30年度から医療機関で健診を受けた当日に保健指導が受けられるようになるので、積極的に医療機関へ同日実施を働きかけていきたい。

【事業主代表】

「標準人員のあり方を検証する」とあるが、検証せざるをえない状況なのか。

【事務局】

本部から各支部に標準人員が示されている。協会けんぽの方針として、基盤的な業務を効率化し、保険者機能の発揮に携わる業務へ人員をシフトするよう示されている。各グループの仕事の進め方が効率的かどうか、人数比が適切かどうか検証していく。

【事業主代表】

「人事評価制度を適切に運用し、その評価を処遇に反映する」とあるが、どういう処遇に反映されるのか。

【事務局】

昇任、昇格、ボーナスに反映される。

【被保険者代表】

医療費通知には、窓口で払った額だけでなく健康保険から負担されている額が記されており、医療費の構造がよくわかる。今後も医療費通知は届くのか。

また、加入者が通知を見て疑義があった場合、レセプトが査定されたりするのか。

【事務局】

医療費通知は毎年2月に送付しており、加入者の皆様に、医療費の仕組みを知っていただくため通知している。今年度からは医療費控除に使用できるようになり、加入者の皆様にとってメリットが増えた。

また、通知とレセプトの査定は別なことになる。レセプトの点検による査定は、医療機関が保険請求のルールに則って請求しているか審査しており、もし正しく請求されていないと医療機関へ支払わないということになる。

【被保険者代表】

「郵送化率を高める」とあるが、秋田市内の方は窓口へ持ち込んだほうが便利で早く、記入間違いもなく安心できる。年金機構であれば各都道府県に事務センターがないので郵送化の促進を理解できるが、

協会けんぽで郵送化率をさらに上げる理由はなにか。むしろ、加入者にとってサービスの低下にならないか。今後、マイナンバーを記載した書類を送る際、普通郵便では不安だが書留等まではためらうので、やはり持ち込んだ方が安心できる。

【事務局】

おっしゃるとおり。実際に、書類を窓口で確認してもらって安心したいという方も多い。加入者サービスとしては必要だと考える。全国的に年金事務所の協会けんぽ窓口の閉鎖を進めており、秋田県も年金事務所の窓口はすべて閉鎖している。そういった意味で、遠方からわざわざお越しいただかなくとも、郵送で申請可能だということをさらに周知し、郵送化率を上げていきたいという趣旨である。

【被保険者代表】

被扶養者資格の再確認について、100%近い事業所で提出しているものだと思っていた。広報等にあったが、現在でも被扶養者資格の再確認により医療費の節約へつながるものなのか。

【事務局】

今年度の秋田支部の提出率は、全国で一番高かった。事業所への勧奨により、提出率が上がってきている。高齢者医療への拠出金は加入者数に応じて負担金が決まる。正しい加入者数を把握して、皆様の保険料を適切に支払うために必要な事務となるので、引き続き協力をお願いしたい。

【学識経験者】

健康経営宣言事業所数が560社を超えたことは、大変いいことである。一方、秋田県で10年後に「健康寿命日本一」を目指し様々な取組みを行っているの、そういったフレーズを盛り込んではいかがか。

【事務局】

連携して取り組んでいる事業にもなるので、そういった趣旨の文言を付け加えたい。

【被保険者代表】

ジェネリック医薬品の薬剤師会との協力連携であるが、実際に薬剤師会はジェネリック医薬品に対してどのように考えているのか、協力的なのか。

また、患者さんが訪れた薬局でジェネリック医薬品を取扱っていないとなると受け入れるしかないのか。例えば、薬局を変える選択肢もあり得るのか。

【事務局】

薬剤師会は非常に協力的。薬局へのジェネリック医薬品使用割合のお知らせ通知などは、薬剤師会と綿密に打ち合わせを行い連携している。また、各種イベントなども合同開催している。

薬局のジェネリック医薬品の扱いについては、ジェネリック医薬品も種類がたくさんあり、薬局としては在庫を抱えるのが難しいところ。患者さんがジェネリック医薬品にしたいということであれば、薬局を替えることもあり得る。

【議長】

—採決—

平成30年度事業計画及び予算（案）については、全員一致で承認された。

2. 平成30年度秋田支部保険料率について

【評議会】

前回の評議会と同様の意見。

【議長】

—採決—

平成30年度秋田支部保険料率については、全員一致で承認された。

【事務局】

保険料率が下がった要因について、全国平均と比べ秋田支部の医療費が伸びなかったことが一因として考えられる。あらためて分析をして、皆様にわかりやすくお伝えしつつ、さまざまな取り組みをしていかななくてはならないと考えている。

各種事業を進めていくにあたり、評議員の皆様にもご支援・ご協力をお願いしたい。

3. 協会けんぽのインセンティブ制度の本格実施について

【被保険者代表】

決まったものであれば協力していきたい。

報奨金については金額ベースで考えるのか。そうであれば、大規模支部が報奨金をもらってもその支部の保険料率にはあまり反映されないし、小規模支部ではあればある程度反映される。支部の規模によって保険料率への反映のレベルが違うと思われるがいかがか。

【事務局】

金額になる。支部の規模によって保険料率への反映に相当な違いがあることは、全国の評議会でも意見として出ている。実際に運用してみて、必要なところは見直していくと思われる。

■次回評議会の開催 3月開催予定